



# 日本のネイチャーガイド業の 現状と課題



2017年11月16日

ピッキオ 楠部真也

# 日本のネイチャーガイドの需要

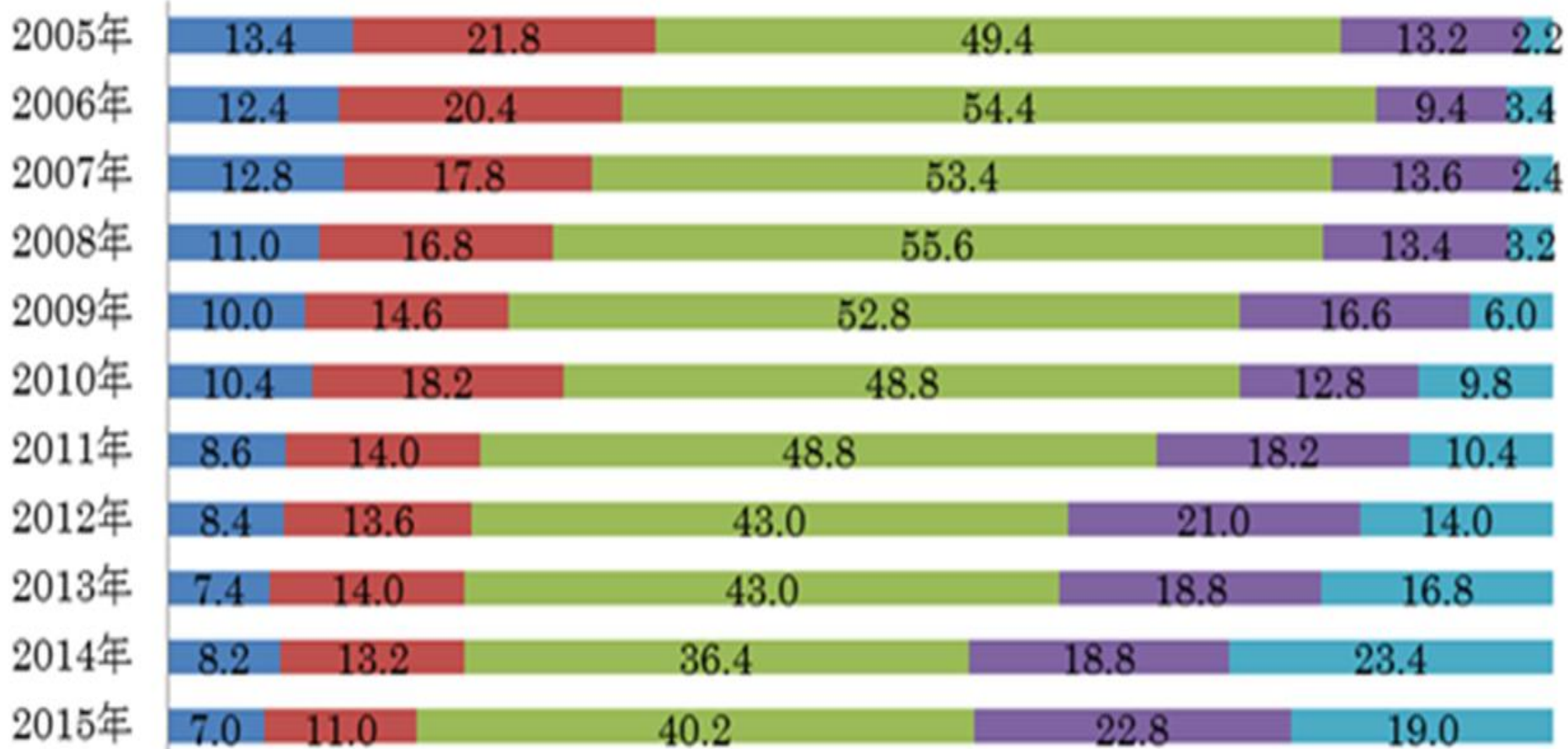
- 国内観光客の自然体験型観光の需要は伸び悩んでいる。（寧ろ減少傾向？）





# エコツアー参加意向

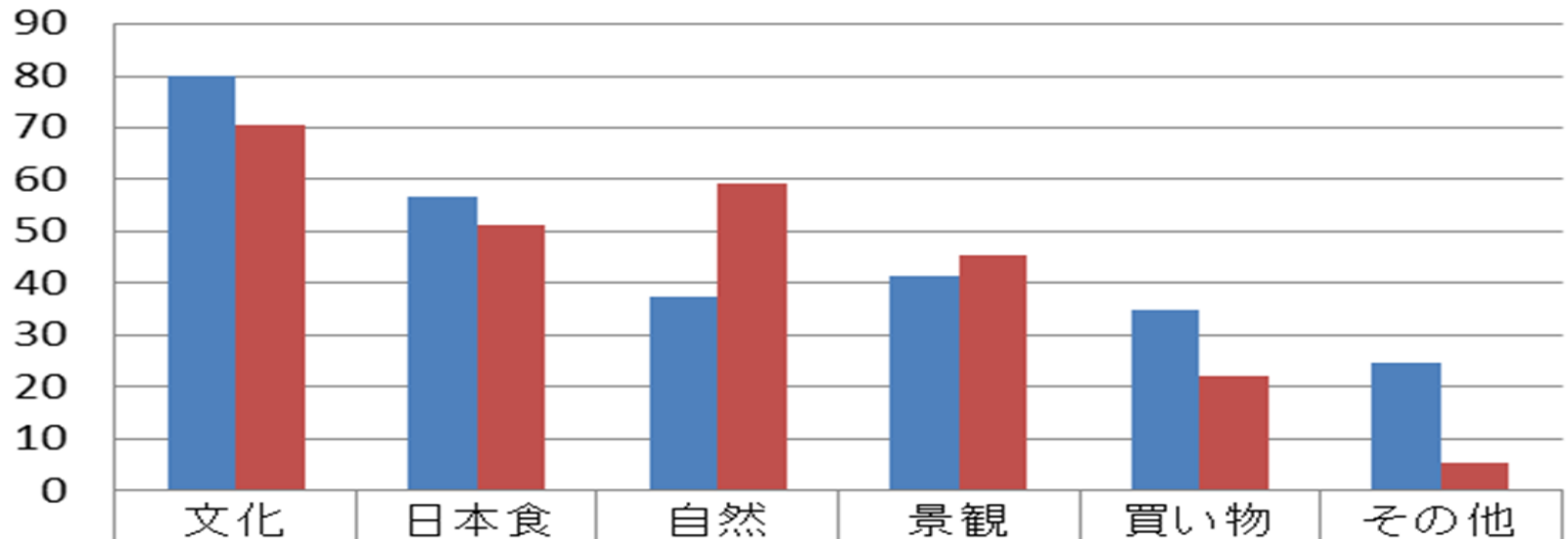
- 是非行ってみたい ■ 行ってみたい ■ 興味はある  
■ あまり参加したくない ■ 参加したくない



# 海外観光客からの需要

- 欧米豪を中心とした海外観光客からの需要は増大傾向にある。

## 今回の目的と次回への期待



■ 今回

80

56.7

37.3

41.3

34.7

24.7

■ 次回期待

70.7

51.3

59.3

45.3

22

5.3

## 自然豊かな地域（北海道）などで最近見られる課題

- “外国語を話す事ができる” ガイドの需要が増大しているが対応できるガイドが不足している。
- 結果として自国のガイドがガイドするという状況になっている。

折角の消費の機会が損なわれてしまう。

# 何故外国語を話す事ができるガイドが少ないのか？

- **ガイドの教養レベルは決して低くは無い（但し自然系（理系）の方が多い）**
- **ガイドの所得が圧倒的に低い**
- **持続可能な生活が期待できず、人気の職業にはなっていない。**

# 何故、ガイド業の所得が低いのか？

- **日本の観光業の構造上の問題（運輸系が非常に強く且つ所得が高く、アクティビティの価格は世界と比べてとても安い（東アジアの傾向）**
- **ガイド事業者自体の問題**

# ガイド事業者が抱える問題

- ガイド事業だけでは、構造上の問題からプログラム単価も低く日本国内では食べていくのは一部地域以外は困難
- 事業運営を継続する為に、行政の補助金や委託事業に頼るケースが多い
- 補助金や委託事業の方が金額が大きく、事業継続の為にそちらに傾注するケースが多くなる。
- 補助金や委託事業は単年度契約がベースである為、雇用の継続が難しくなる
- 地域の税金を活用する事も多く、地域住民から反発を食らう事も少なくない
- 体験収入だけで食べている事業者も従業員に十分な給与を与えている業者は少なく、離職率が高い



## その結果...

- **ガイド事業者のスタッフがコロコロと入れ替わり、地域の信頼を得られない⇒（どうせ後数年したらいなくなっちゃうでしょ...）**
- **地元のサポートが無いとなかなかガイドツアーを売る事ができない⇒悪循環**

**必要なのはその地域に居住して  
そこで家族を養える仕組み**

# 今後必要と思われる事

- 市町村別の観光に係る観光消費額、雇用、所得の把握と目標値の設定
- 上記データを把握した上で、ターゲットの選定
- ターゲットにおける日本の自然（国立公園、野外体験等）の認知率の調査とその向上

（テーマ別観光で実施した簡易調査では訪日前に日本の自然情報を目にしていた人は41%。）

- アイスランド等海外で成功した事例の検証